

令和2年度第1回大分県医療費適正化推進協議会

令和2年11月30日(月)16:00~17:00

【資料3】

糖尿病性腎症重症化予防 推進事業について

現状

- 1 人口100万あたり透析患者数
3,546.3人 (全国5番目の高さ)
- 2 糖尿病性腎症重症化リスクの高い県民の状況

透析は週3日、
一回あたり
4~5時間必要

【H30年度市町村国保】

- (1) 健診で糖尿病性腎症要治療と判定されたが未受診者 **115名**
 - (2) 糖尿病の治療歴があるが、受診中断している者 **3314名**
- ※仮にこの3429人が医療機関未受診のまま人工透析となった場合 約500万円 × 3429人
= **年間約171億4,500万円の医療費が発生**

課題

1 かかりつけ医と専門医の連携

・かかりつけ医(内科、胃腸科、循環器科等)で治療中だが、腎臓・糖尿病専門医の視点からの治療や処方のタイミングを逃してしまい、重症化する事例がある

2 かかりつけ医と市町村の連携

・かかりつけ医で治療中だが保健指導を行う市町村との情報共有が難しいことから、生活習慣の改善に至らず重症化する事例がある

3 未受診者・治療中断者を治療に結びつけることが難しい

・自覚症状がないことから、医療機関受診を先送りしたり自らの判断で治療中断し重症化する事例がある

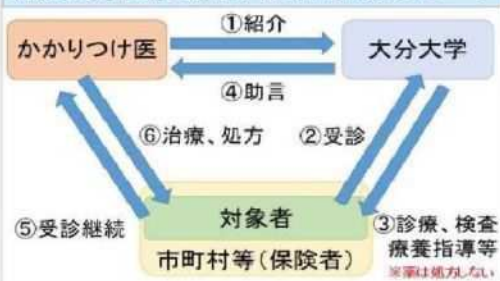
令和2年度の主な取組

1 連携協定締結を踏まえた、かかりつけ医と専門医、かかりつけ医と市町村・保険者の連携体制の強化

新 (1)「糖尿病性腎症重症化予防専門外来」の開設(大分大学医学部附属病院)

- ・大分大学医学部附属病院の糖尿病・腎臓専門医による、診療・検査及び処方調整等、かかりつけ医等への助言・支援及び患者への生活指導を行う体制整備
- ・かかりつけ医や市町村等からの要望により、専門医を個別支援検討会議に派遣

腎症重症化予防ステーションの機能を持つ
糖尿病性腎症重症化予防専門外来のイメージ



(4)各市町村の個別支援検討会議(患者の状態、支援方針等の情報共有を行う)開催支援

・会議への専門医、保健師、栄養士等の派遣

2 未受診者・治療中断者への医療機関受診勧奨の徹底

拡 (1)ナッジ理論を活用した勧奨通知と電話勧奨

・損失回避しようとする心理や行動、思考の癖を利用して受診を誘導

「ナッジ理論」の活用事例

損失を回避しようとする人間の心理を利用

A グループ	本年度、検診を受診した方には来年度「検診キット」をご自宅へお送りします。	22.7%
B グループ	本年度、検診を受診されないと来年度、ご自宅へ「検診キット」をお送りすることができません。	7.2ポイントの差 29.9%

3 重症化予防に向けた県民の行動変容を促す広報・普及啓発の徹底

新 (1)県医師会・大分大学等と連携した各地域・職域への出前講座の実施

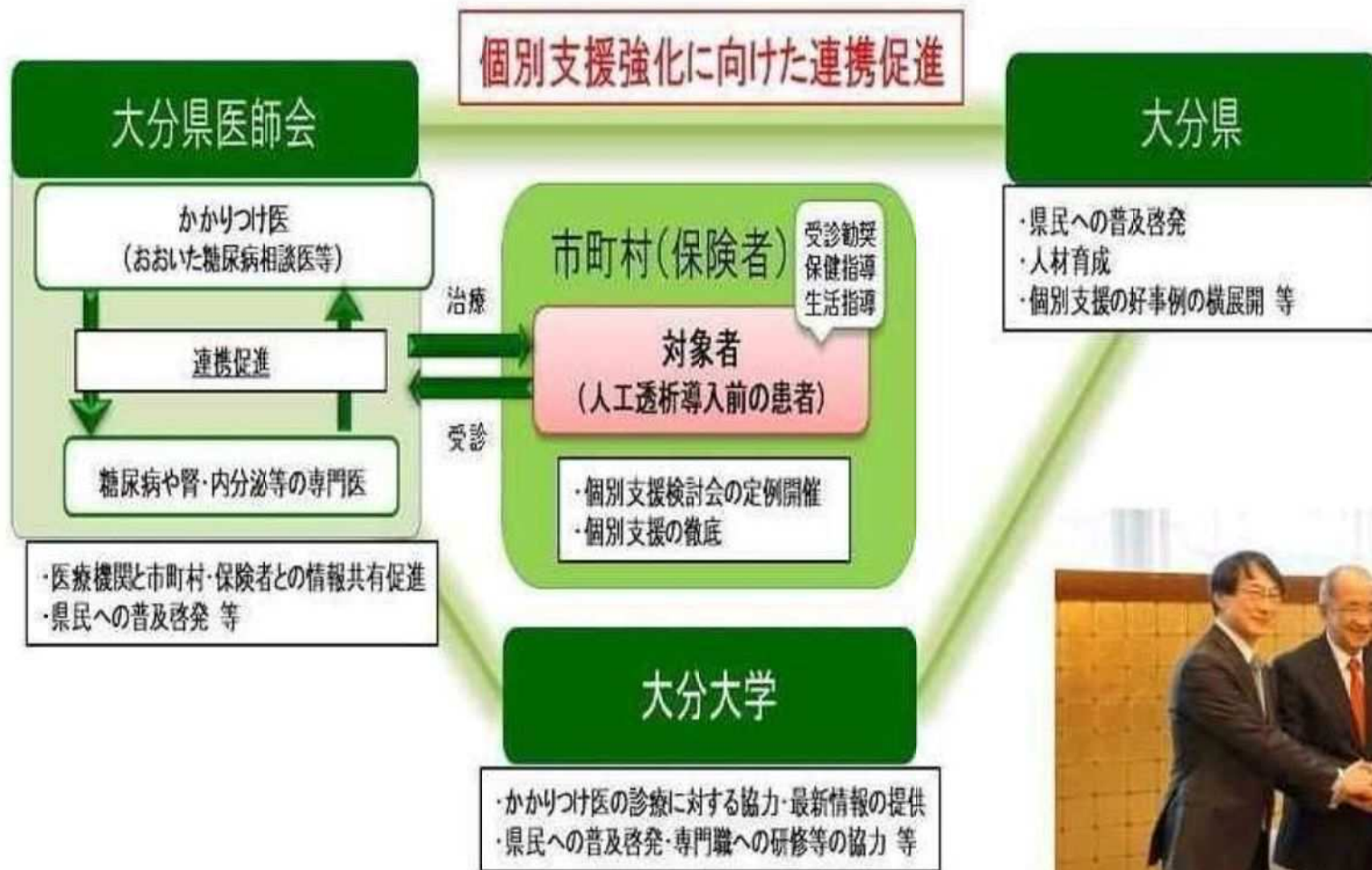
新 (2)広告代理店等を活用したSNS、新聞、雑誌等による普及啓発

糖尿病性腎症重症化予防による新規透析の導入回避

県民の健康寿命延伸

大分県糖尿病性腎症及び慢性腎臓病の重症化予防に係る連携協定

令和元年12月25日締結 ※大学を含めた連携協定の締結は全国初



協定締結式
・北野大分大学長
・広瀬知事
・近藤県医師会長

大分大学医学部附属病院に開設！！ 【糖尿病性腎症重症化予防専門外来】

気軽に相談できる腎症重症化予防のステーションとしての役割を持っています

- 糖尿病や慢性腎臓病等の改善のためには、治療と日頃の食事・運動等の生活習慣が深く関係しています。でも、重症化するまで自覚症状がない方が多く、危機感を持ちにくいこと等から、生活習慣の改善や継続は大変・・・
- そこで、今年度から各市町村にお住まいの糖尿病、慢性腎臓病などの治療中で腎症重症化のおそれがある患者さんを対象に、かかりつけ医、大学病院の専門医、市町村など、個別支援に携わる関係者等が連携して、患者さんの状態に応じた処方調整、治療の継続、生活習慣の改善を支援します。



患者さん・医師・保健指導担当者、それぞれが一人だけで
がんばらなくて良い体制づくりを支援します

なぜ腎症重症化予防が大事なのです？

糖尿病や高血圧などの疾患は、放置すると致死的な血管障害だけではなく、腎機能の低下から最終的に透析が必要な状態を引き起こします

透析が必要となった方の4割は糖尿病が原因です

人工透析となったら人生が一変！！



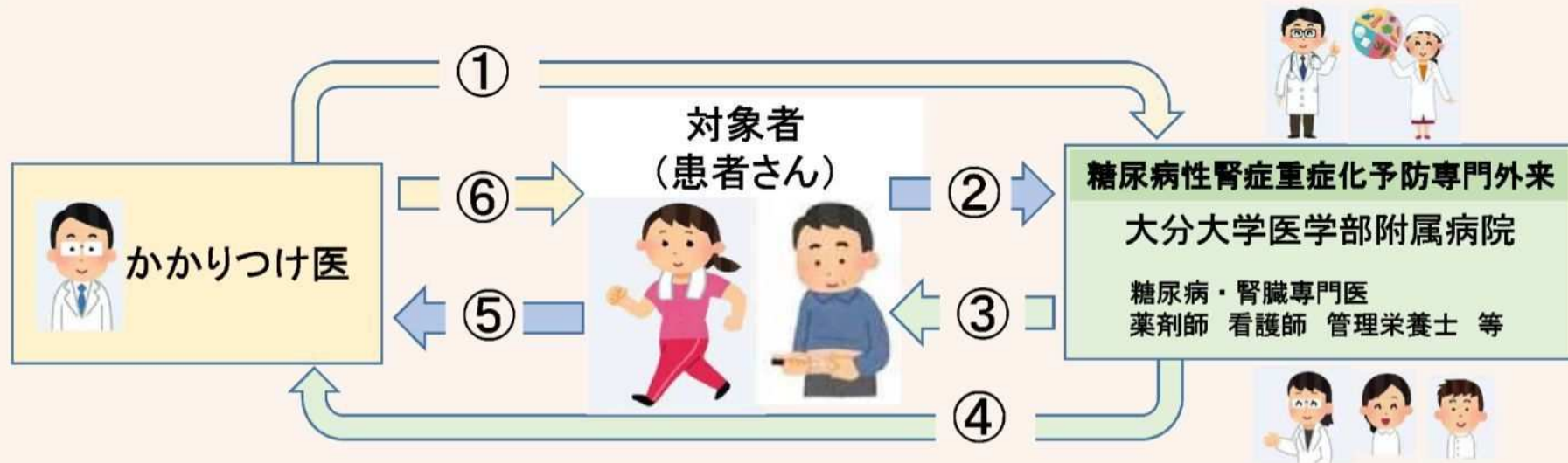
- ▶ 週3日、1回あたり4～5時間必要です
- ▶ 一生、透析を続けることとなります
- ▶ 1年間に1人あたり約500万円の医療費が発生します

大分県の現状と課題

- ▶ 人口100万あたりの透析患者数は全国5番目の高さ！
- ▶ 治療中ですが生活習慣の改善に至らず重症化する患者さんが見受けられます
- ▶ 自らの判断で医療機関受診を先送りしたり治療中断する患者さんもいます

個別支援強化に向けて連携促進！

大分大学医学部附属病院 糖尿病性腎症重症化予防専門外来 受診フロー(案)



①紹介・予約

- ▶ かかりつけ医が病院への紹介・予約を行います
- ▶ 患者さんご本人からの予約はできません
- ▶ かかりつけ医から病院へ、予約日の2週間前までに専用の紹介状のFAX送付、原本は患者が持参します

②大学病院 受診

- ▶ 予約日に病院を受診します
- ▶ 病院の受診の方法については、病院ホームページや総合案内へご確認ください

③診察・検査・療養指導等

- ▶ 病院の専門医や看護師、管理栄養士等が連携して検査や療養指導を行います
- ▶ かかりつけ医の希望に応じて画像検査や生理検査の実施も行います。
- ▶ 原則として、処方はいりません

⑥治療・処方

- ▶ かかりつけ医の先生は、病院からの助言も踏まえ、患者さんの治療を継続します

⑤かかりつけ医 受診

- ▶ 患者さんは、これまでどおりにかかりつけ医へ定期受診します

④助言

- ▶ かかりつけ医の先生方や個別支援に関わる関係者へ、薬の処方調整や個別支援について、専門医が助言します

かかりつけ医への定期受診、3ヶ月毎の大学病院への受診を基本とし、かかりつけ医と専門医等の連携により、患者さんの生活習慣の改善、重症化の予防をめざします
(※ご本人だけでなく、かかりつけ医、ご家族、保健師等からご相談にも対応いたします。)

